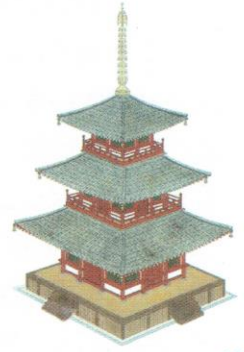


# 歴史の道



route principale • trunk road • 幹線道路 • carretera troncal • strada statale • 간선도로 • магистральная дорога • 主干道 • Fernstraße • route princ

itinéraires de pèlerinage • 参詣道 • pilgrimage routes • vie di pellegrinaggio • Pilgerwege • 参詣道 • pilgrimic routes • 朝聖路線 • rutas de peregrinación • itinéraires de p

8月27日 sat

— 今に伝える文化の証 —



『紀伊国の南海道駅路 — 伊都郡を中心に —』  
講師 / 大岡 康之

『高野参詣道町石道における接待場の整備について』  
(接待場をもっと多くの皆さんに知ってほしい)  
講師 / 北岡 英二

『聖地および巡礼道におけるお接待  
— 高野山参詣を支える地域住民の質的研究 —』  
講師 / 築田 香織

時間 13:30 ~ 17:00 (休憩を含む)  
場所 かつらぎ総合文化会館 AVホール  
住所 かつらぎ町丁ノ町2454  
定員 200名



※ 入場無料・事前申込不要です。直接会場へお越しください。

## ～文化の交差点、かつらぎ町～

かつらぎ町は和歌山県の北東部に位置し、北は大阪府河内長野市・和泉市・岸和田市と接し、水上交通路でもある紀の川が町を東西に流れています。原始には東日本や九州地方、中国地方など様々な地域とのつながりがありました（中飯降遺跡<sup>なかいがりいせき</sup>）。古代には当時の首都圏の南限となり（背山）、京との関係が濃い古代寺院が建立され（佐野寺跡<sup>さやでらあと</sup>）、国家的な幹線道路のひとつである南海道が通っていました。また、紀伊山地北西部一帯を領地とした丹生都比売神の総本社（丹生都比売神社<sup>にうつひめじんじや</sup>）とそのかつての里宮（丹生酒殿神社<sup>にうさかどのじんじや</sup>）が鎮座し、それらを高野参詣道（三谷坂・町石道など）が結んでいて、世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』を構成しています。このようにかつらぎ町は、数多くの文化的拠点と主要交通路・参詣道を有し、歴史的に文物が行き交う要衝の地でした。

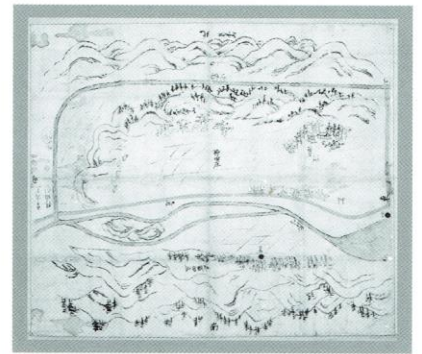
文化の交差点であるかつらぎ町。今回の講演会では、古代の幹線道路「南海道」と世界遺産構成資産である「高野参詣道町石道」を取り上げ、中央と地方、参詣者と地域住民、過去と未来など、様々なつながりについて考えてみたいと思います。

### 『紀伊国の南海道駅路 — 伊都郡を中心に —』

大岡 康之(元 橋本市郷土資料館館長)

長らく実態が不明となっていた古代の幹線道路「南海道駅路」。空中写真を利用し、考古学・文献史学・歴史地理学的検討を加え、伊都郡、特にかつらぎ町内を中心にそのルート復元を試みます。

経歴 / 橋本市教育委員会で文化財専門職に30年以上従事、定年退職後も橋本市郷土資料館館長などを歴任、文化財の普及活動に携わる。専門は日本史学。



きいのくにかせだのしょうえず  
重要文化財「紀伊国柿田荘絵図」

### 『高野参詣道町石道における接待場の整備について』

(接待場をもっと多くの皆さんに知ってもらいたい)

北岡 英二(教良寺区)

真言宗の開祖、弘法大師(空海)は、西暦835年3月21日に入定<sup>にやうじやう</sup>しました。毎年この入定の日に高野山で行われる法会を『御影供(みえく)』といい、大正時代の末期まで人々は歩いて高野山を目指しました。

当時、御影供の日に教良寺村の有志たちが高野詣の人々に、この場所で握り飯や湯茶の接待を行ったことから『接待場』と言い伝えられています。

ここには、弘法大師(空海)の石像があり、この石像を拝むと「遠く高野山奥の院の御廟<sup>びやう</sup>を望む」と言われています。

経歴 / 団体職員を定年退職後農業に従事。趣味は町石道参詣登山。



### 『聖地および巡礼道におけるお接待』

—高野山参詣を支える地域住民の質的研究— (横浜市立大学都市社会文化研究科 客員研究員) 築田 香織

高野山参詣におけるお接待について報告します。お接待とは、参詣道周辺の住民などが、信仰心に基づいて参詣者をもてなす行為です。今回は、①このお接待が参詣手段の変化によって、どのように変容してきたのか、②参詣と観光が交錯する現在、どのようなお接待が提供されているのか、という2つの問いを中心に講演したいと思います。

経歴 / 現在、横浜市立大学都市社会文化研究科 客員研究員、和歌山大学国際観光学研究センター 客員フェローを務める。2022年3月和歌山大学大学院観光学研究科にて、博士(観光学)を取得。専門は聖地観光、巡礼、宗教ツーリズム、スピリチュアリティ。

